

伊豆シャボテンリゾート 株式会社

2025年3月期

決算説明資料



事業説明（各事業の概要）

【レジャー事業】

- セグメント利益が848百万円（前年比8.2%増）
- 伊豆ぐらんぱる公園に隣接した土地及び建物を購入。「雨天時でも楽しめる施設」を計画中

【アニタッチ事業】

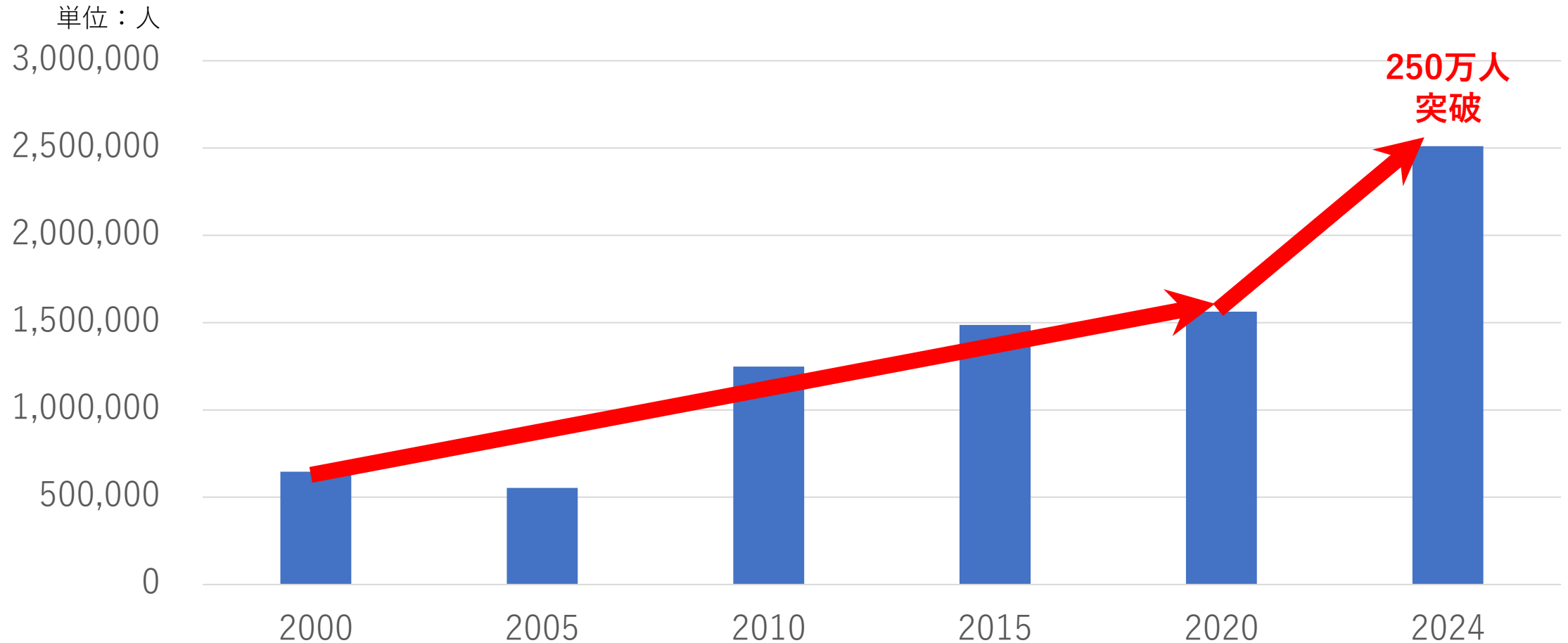
- セグメント利益324百万円（前年比204.7%増）
- 都会でも動物の生態を学びながら動物たちと触れ合える、屋内型サテライト施設を全国6店舗まで拡大

【ホテル事業】

- セグメント利益63百万円（前年比9.6%増）
- 3つのコンセプトと5つのタイプで宿泊施設を提供、お客様のニーズに合った宿泊施設が選択可能

- 伊豆シャボテン動物公園グループ年間来園者数250万人を突破

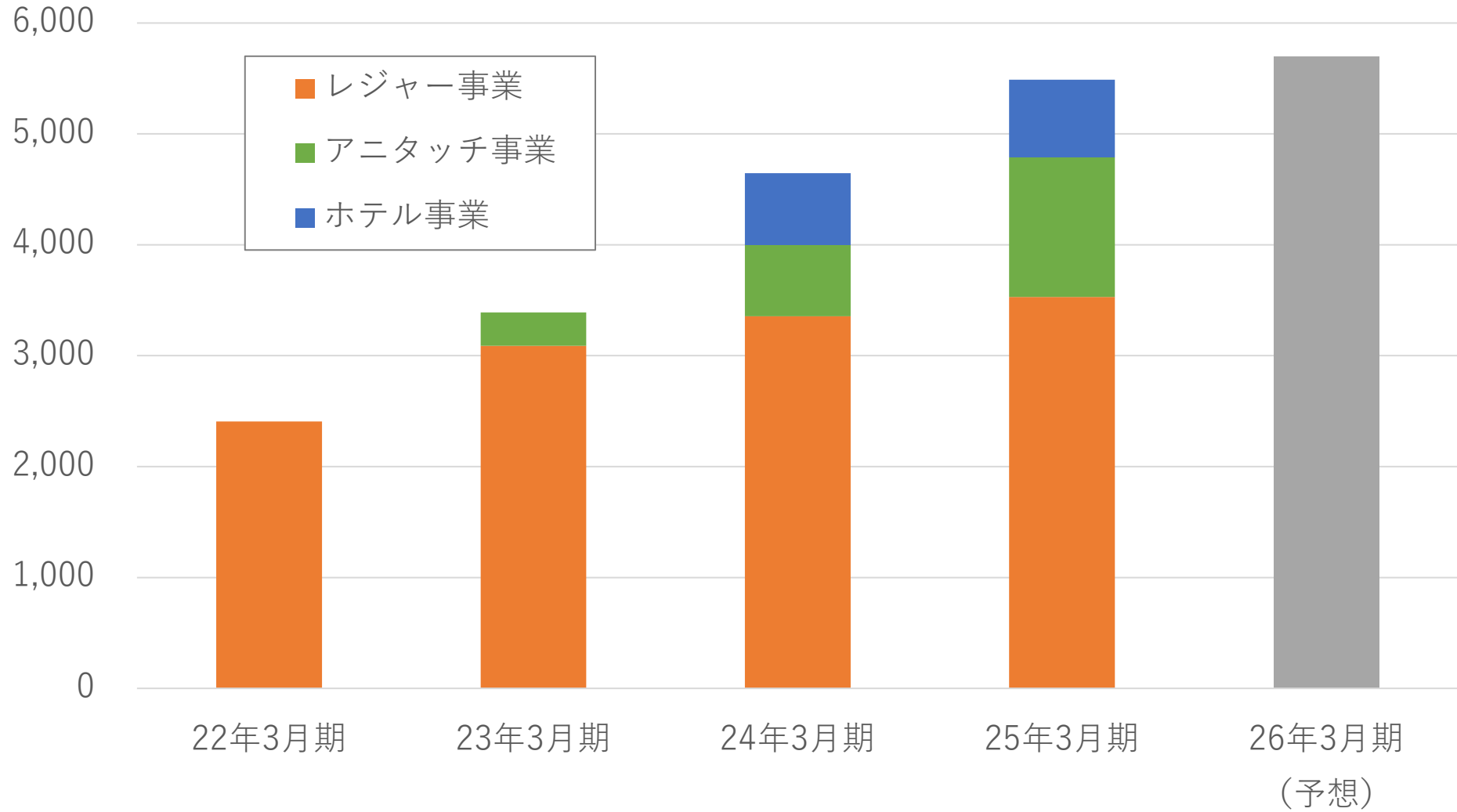
来園者数（グループ合計）



【売上高推移】

(2022年3月期～2025年3月期) * 26年3月期業績予想含む

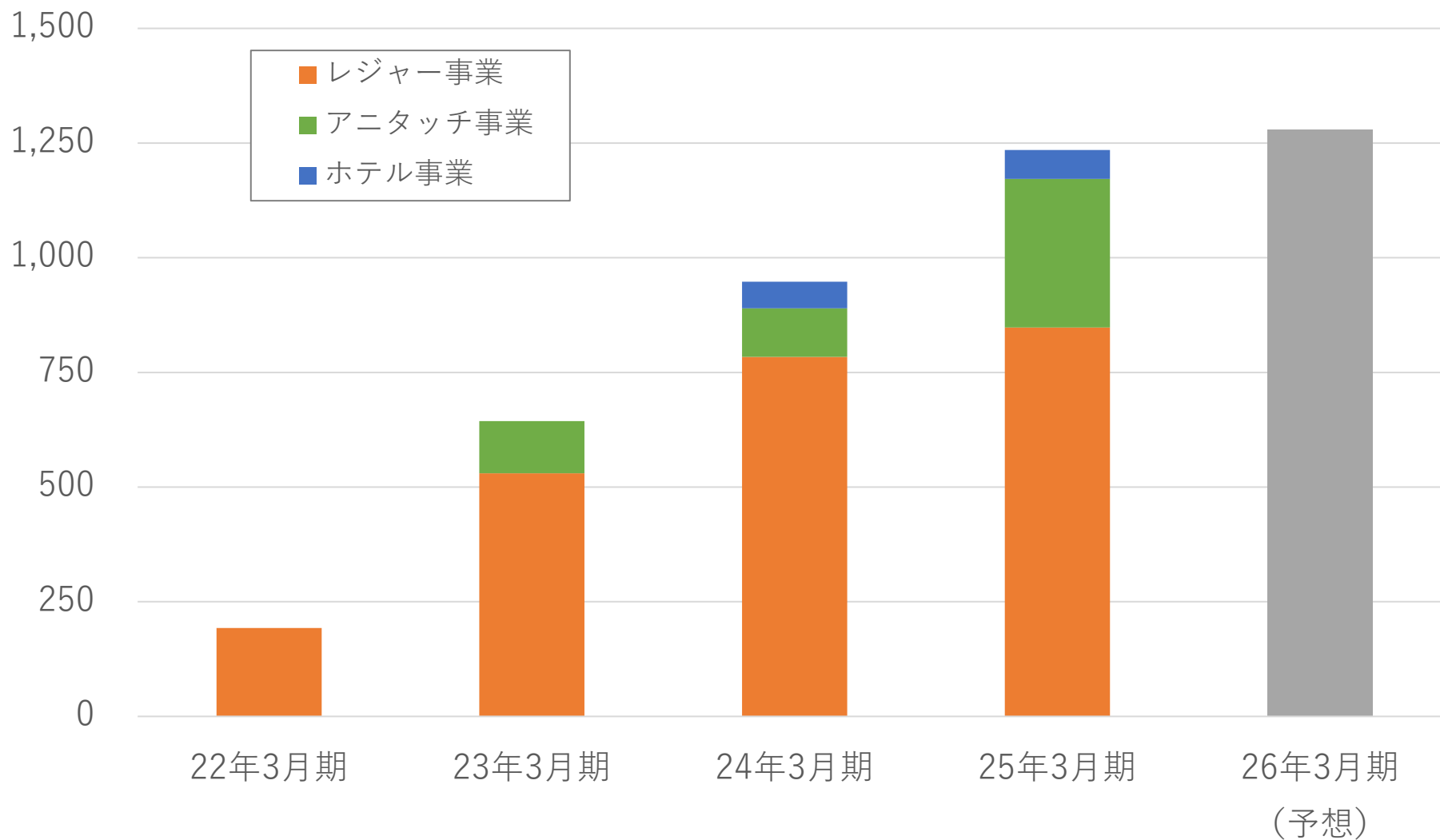
単位：百万円



【セグメント利益推移】

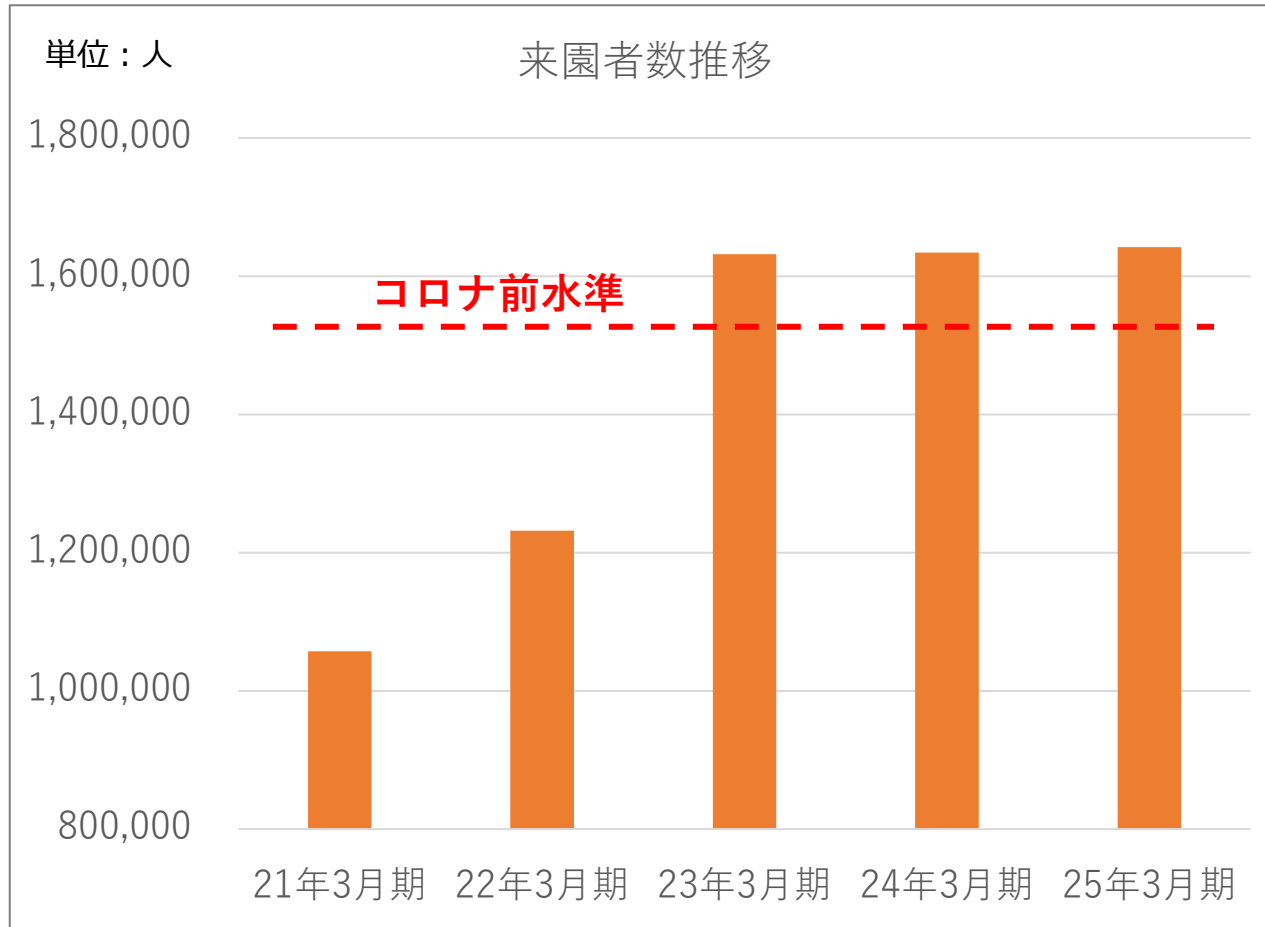
(2022年3月期～2025年3月期) * 26年3月期業績予想含む

単位：百万円



【レジャー事業】

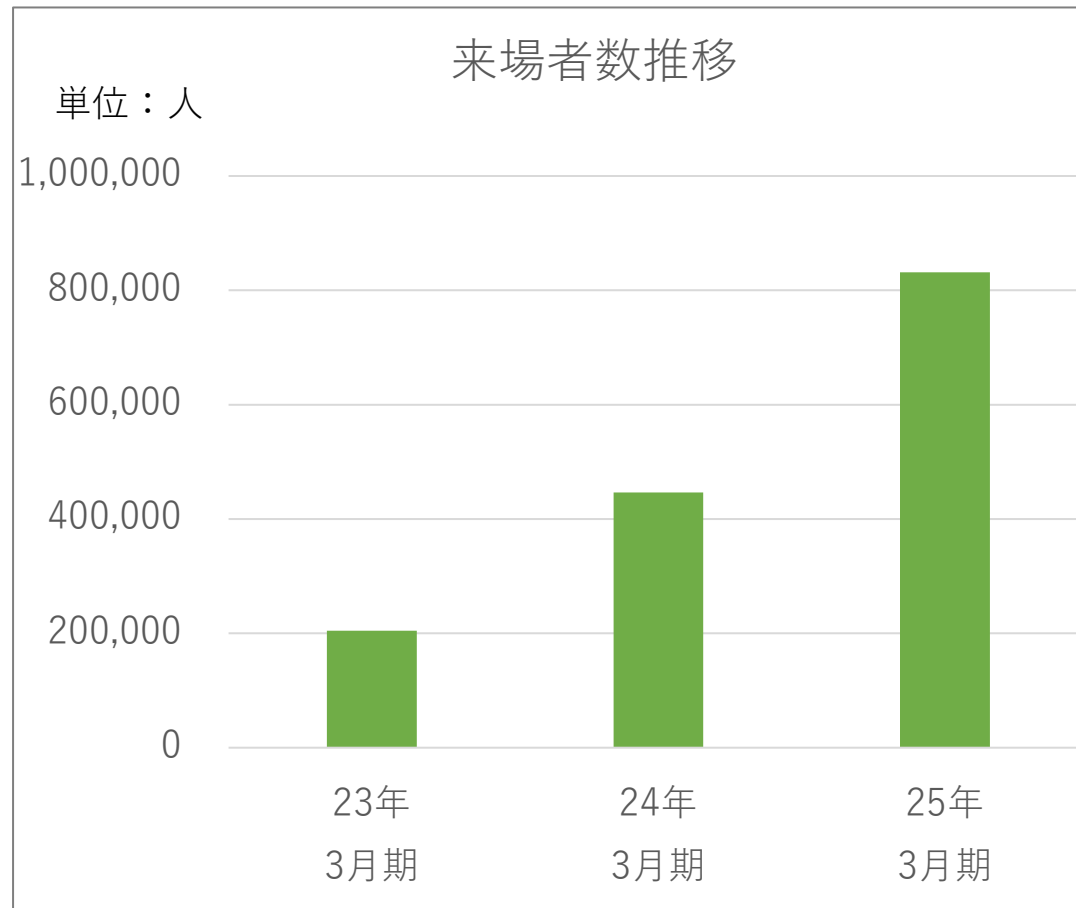
- 来場者数はコロナ前を3期連続で超え、微増ではあるが前年を上回る成長
- 特に「伊豆シャボテン動物公園」は、前年比+9万人超



- 25年5月、キリンやダチョウ、大型草食動物が闊歩する「サバンナエリア」をオープン
- 国内のみならず海外にも人気が波及している「カピバラの露天風呂」
- 園内中央に位置する池をボートで巡り、動物たちとのふれあいや観察ができる国内唯一の展示方法である「アニマルボートツアーズ」が好評
- 伊豆ぐらんぱる公園に隣接した土地及び建物を購入。雨天時においてもお客様にお楽しみいただける施設構築を計画

【アニタッチ事業】

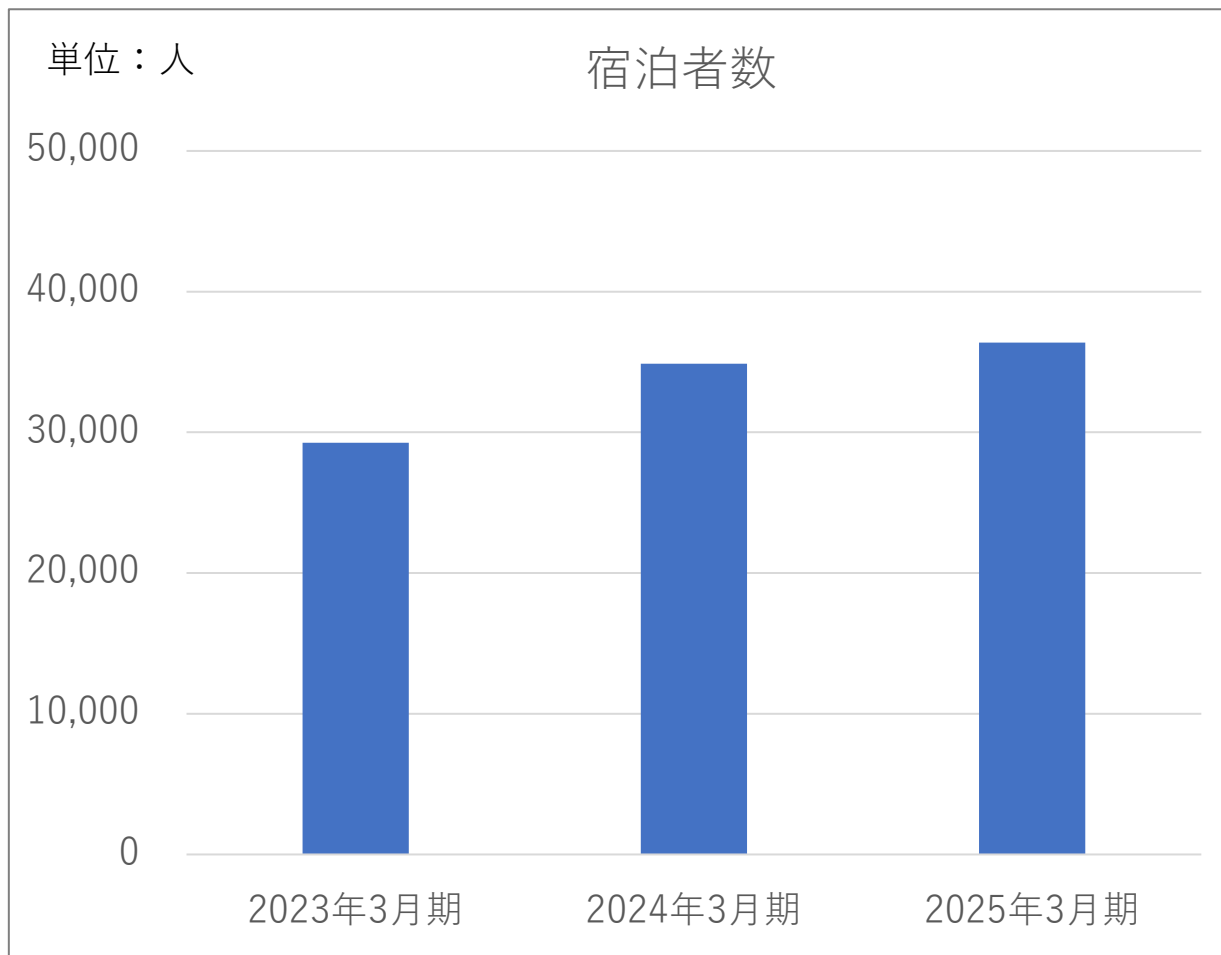
- 伊豆シャボテン動物公園の歴史により蓄積された経験やノウハウを活かし、新たに事業展開を果たしたのが屋内型サテライト施設ともいえるアニタッチ



- 都会においても動物の生態を学びながらふれあい体験を楽しむことができる屋内型ふれあい動物園がファミリーに好評
- 年間来園者数80万人突破（前年比86%増）
- 24年4月、
「アニタッチPARK イオンモール太田」オープン
<https://www.ota.anitouch.com/>
- 24年7月、
「アニタッチ 東京ドームシティ」オープン
<https://www.tokyodomecity.anitouch.com/>
- 家族連れの集まる観光地やショッピングモールへの積極出店に挑戦

【ホテル事業】

- 伊豆に3つのコンセプトホテル（グランピング、プチホテル、スカイヒルホテル）を営業



- 【グランピング】
「伊豆グランヴィレッジ グランピング」
フィンランド式サウナで自然の中で気持ち良く”ととのう”を体験

「グランピング 伊豆シャボテンヴィレッジ」
ドームテント・バスルーム・トイレが連結した『新感覚』

「ANIMAL CAMP」
伊豆シャボテン動物公園で暮らす動物や大自然がテーマ
- 【プチホテル】
モダンでシックなお部屋や自然や動物がテーマ
- 【スカイヒルホテル】
全室オーシャンビュー、伊豆高原の街並みや伊豆大島を一望

【配当に関するお知らせ】

2024年3月期（昨年度）より、20年以上振りに株主の皆様への利益還元（配当）を再開し、2025年3月期（今期）は昨年度を上回る業績を達成することができたこともあり、一株あたり+5円（昨年度比）増配の15円の配当を予定しております。

コロナ禍で停滞していた業績の回復に加え、23年3月期に立ち上げたアニタッチ事業が好調に推移していること、更には、ホテル事業も新たな事業の柱へと成長させ、これからも、株主の皆様になんとか少しでも多くの利益を還元していきたいと思っております。

免責事項

- 本資料に掲載されている情報には、業績予想・事業計画等の将来の見通しに関するものが含まれています。
- これらの情報については、現時点で当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、リスクや不確定性をふくむものです。当社としてのその実現や将来の業績を保証するものではなく、実際の業績はこれらの将来の見通しと異なる可能性があることにご留意ください。
- 本資料は当社の情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却等の勧誘を目的としたものではありません。当社の有価証券への投資判断は、ご自身の判断で行うよう、お願いいたします。